

### インターネットがあっても——海外での安全管理

海外では「安全はタダでは得られない」という緊張感をもつことが大切だ。



前 東京海上日動火災保険株式会社  
海外安全担当 いそがいはやと  
**磯貝隼人**

#### どこに行っても安全との錯覚

私は、40年余りの会社生活の中で20年近くを海外で過ごした。中東（ドバイ、クウェート、サウジアラビアで合計7年）、マレーシア（4年）、ニューヨーク（8年）と駐在地は多岐にわたる。1980年に初めて赴任したドバイは、内示を受けた際に自宅の世界地図を眺めても載っていなかったことを懐かしく思い出す。最初の赴任直後には、先輩の駐在員から「日本は安全と水はタダだが海外では全く違う」と繰り返し言われた。得られる情報が少ない中で、会社の先輩や同じ場所に居住する他社の方々からいただく日常生活のアドバイスをもとに、いかにして毎日を安全に過ごすかを工夫したものだ。

その後、時代が進むにつれて各種情報がまずは書籍・文書などで、さらにはインターネット等で入手できるようになり、今では日本に居ながらにして世界各地の様々な情報が手に入るようになった。だが、こうなってくると、世界のどの場所においても比較的安全な日本と同様、安全な生活が可能と錯覚する恐れがある。

#### リスクに対する感度を高めよう

海外におけるリスクには様々なものがある。病気、交通事故、強盗、窃盗、誘拐、自然災害といった一般的なリスクに加えて、最近ではテ

ロのリスクも高まっている。こうした状況の中では、海外に住む、あるいは旅行する場合には、「我々が通常生活している日本とは全く異なる」ことを念頭に置いて、リスクに対する感度を高めることが重要だ。

こういったリスクには自身がどれだけ注意しても防げないものもある。しかし、事前に注意することによって防止する、または低減できるものが大半ではないだろうか。例えば、街なかを歩く際に基本的な注意を払うことによってスリや強盗に遭遇する確率は相当程度低下する。爆弾テロについても、危険度が高いと思われる場所にはできるだけ近づかない、長く留まらない。また、万が一、爆弾テロに遭遇した場合も、直後の行動次第で被害を最小限にすることができる。誘拐は通勤時間や経路を固定しないなどのちょっとした予防策で被害に遭う確率を減らすことができる。要は、海外では平常心を保ちつつも、「安全はタダでは得られない」という緊張感をもつことが大切だろう。

水は高さから低きに向かって流れる。例えば、何軒かの家が並んでいた場合には、強盗が入るのは外見から防犯の程度が低いところからである。自然災害やテロも、実際に遭遇する確率は低いのが、事前に注意することによって被害に遭う確率を低減し、小さくすることが可能になる。

また、海外では現地の人々の生活や文化をリ